

# こおろぎ

発行日 2008年10月1日 No.188  
発行元 株式会社  
オリジン・コーポレーション  
発行者 杉井保之  
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1  
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187  
E-mail [origin@ck.tnc.ne.jp](mailto:origin@ck.tnc.ne.jp)  
URL <http://www.origin-co.com>

## 腹をくくる

今年も9月14日に、恒例の50kmウォークを行いました。

「どうしてトイレ掃除をしたり、100kmマラソンをしたり、そんなに大変なことをするの？」と質問される方がいるのですが、そう思う方は、是非、やってみることをお勧めします。

多くの人は、講演を聞いたり、良い本を読むことで人生を良くしようと考えますが、どんなに良い情報や知識を得ても、その人の考え方や価値観（パラダイム）が変わらない限り人生はなかなか変わらないものです。つまり、答えが大切なのではなく、その答えの導き方が大事なのです。

では、どうしたら考え方（パラダイム）が変わるのでしょうか？

それには自分が苦手だと思っていることや、出来そうもないと思っていること、やったことのないことに本気で取り組むことが大事だと思います。

私も40歳を過ぎた頃に、「歳をとった」と感じたのですが、自分にとって最も苦手な長距離走で100kmを走りきると、「まだやれるかもしれない！」という気持ちが湧いてきました。もしいつもやっていることや、出来そうなことを繰り返していたら、心からそういう気持ちにはならなかったと思うのです。

しかし、人は弱いものです。したくないことをしなくてもよい環境にあれば、なかなか本気で取り組まないものです。嫌いなことや、苦手なことから上手に逃げる技術も大事だと思いますが、腹をくくって本気で挑戦することの大切さも忘れてはならないと思うのです。

私の場合、父親が残した借金を返さなくてはならないという逃げられない環境におかれたことが本当にラッキーだったと思います。あの時、もし私に逃げ場があったら、腹をくくって努力しなかったと思いますし、今の生活はなかったと思うのです。

逃げたくなる難しい状況こそ、私達がヒーローになれる最も面白いのある局面でもあるのです。その局面を楽しめるかどうかは、知識ではなく、腹をくくって本気で工夫し、戦い抜いた体験だと思うのです。もちろん、腹をくくって臨んだからといって期待する成果が手に入るとは限りませんが、困難な状況の向こうにある「生きている手ごたえ」を知ると、人生は面白くなっていくと思うのです。

嫌なことから逃げてばかりいたら、絶対に味わうことの出来ない人生の醍醐味が、そこにあると思うのです。

### 今月の活動情報 活動を早く知りたい方は、ホームページで

- 10/1(水)南アルプス建設的な生き方を学ぶ会
- 10/2(木)横浜建設的な生き方を学ぶ会 (横浜地域職業訓練センター)
- 10/2(木)東京建設的な生き方を学ぶ会 (田町・コネクト)
- 10/2(木)「幸せに生きる秘訣」(岡山建設株式会社安全衛生協力会)
- 10/3(金)葬儀関連企業研修会 (田町・コネクト)
- 10/9(木)沼津建設的な生き方を学ぶ会 (沼津市原地区センター)
- 10/9(木)沼津経営塾 (沼津市民文化センター)
- 10/10~13 リフレッシュ・セミナー (オリジン山中湖研修所)
- 10/13(月)山中湖建設的な生き方を学ぶ会 (安心サービス)
- 10/14(火)浜松建設的な生き方を学ぶ会 (京丸園)
- 10/15(水)「成功する人 成功しない人」 (伊勢法人会)
- 10/16(木)三重建設的な生き方を学ぶ会 (お菓子茶屋1010番地)
- 10/17(金)社員研修 (株式会社アーティストックス)
- 10/18(土)島田建設的な生き方を学ぶ会 (オリジン)
- 10/18~19 静岡経営塾 (オリジン)
- 10/24(金)「素敵なお子さんを育てるために」(焼津市立大富小学校)
- 10/25(土)「時間の使い方」「お金について」 (オリジン)

## 無理しなくていい？

少子化が進む中、文部科学省の学校基本調査によって、小中学校での「不登校」の生徒の数が増えていることが明らかになりました。

その原因として(1)「人間関係を構築するのが苦手な子供が増えた」(2)「家庭の教育力低下」(3)「『嫌がるものを無理に行かせることはない』という保護者の意識の変化」が上位に挙げられています。この発表を聞いて、皆さんはどのように思われるでしょうか？

私はこの発表を聞いて、日本が豊かになり、未熟な親が増えたことが不登校の子供を増加させていると思いました。

子供達が「人間関係を構築できない」のは、子供達が人の中で育っていないからに過ぎません。少子化や核家族化が進む中、子供同士と一緒に遊ぶことが減ったという社会環境の変化もありますが、子供にテレビやゲームを与えることで、親が楽をしているという側面もあるのではないのでしょうか？

昔なら自宅にお客様をお泊めすることもありましたし、家に人を招いて食事をすることもありましたが、今日ではそうしたことを嫌う大人達が増加しています。親が人と深く関わることを嫌い、子供達が家族以外の人と暮らす機会を減らしたら、子供達が人との関わり方を身につけられないのは当然のことだと思います。

「教育力の低下」や「嫌がるものを無理に行かせることはない」と考える親が増えた」ということも同じだと思います。誰も嫌なことはしたくないものですし、したくないことをすることにはストレスを感じるものです。しかし、ストレスのない人生はないのです。それどころか、嫌なことをしないでいればいるほど、ストレスに対する免疫力が弱まり、より小さなことにもストレスを感じるようになると思うのです。そのことは昔よりも大切に扱われるようになった子供達が、昔からは考えられないほど小さなことでストレスを感じるようになったことから明らかだと思います。

今日の日本は、無理をしなくても生活に困らないほど豊かになりました。そのため、「無理をしてまで嫌なことをしなくていい」という考えが広がっていますが、そう考えることによって親は子供を教育することから開放され、子供と対峙しなくてもよくなるのです。

私も「無理」は良くないと思いますが、「それは本当に無理なことなのか？」を、もう一度考えてみる必要があると思うのです。

昔、フランスでは、フランス人が嫌う仕事をさせるために植民地から労働者を連れて来ました。フランス人がやりたくない仕事を、その人達に安い賃金でさせたのですが、その人達の子供がフランス国籍を得ると、彼らは必死で勉強し、懸命に働いて、様々な分野でリーダーとなっていったのです。

先日のオリンピックでは、日本人のハングリー精神について色々な意見がありましたが、選手一人一人は血を流すような練習をして全力でオリンピックに臨んだと私は思っています。しかし、勝たなくても豊かに暮らせる環境にある人と、勝たないと食べることに困る環境にある人とは、勝利に対する執念に差が出ることは仕方ないことかもしれません。

日本も今、労働力を外国から確保することが協議されています。果たして「無理をしなくていい」と言って育てられた子供達が、貧しい国から来た人達と競争して生き残っていけるのか私は心配です。

人は逃げ場がある限り、なかなか本気で臨めないものだと思います。昔の諺に「仏の親は鬼。鬼の親は仏」というものがありましたが、今日の社会を見ていると、子供をかわいがることだけを愛情だと思っている「鬼の親」が増えた気がしてなりません。

本当の愛情とは何なのか？ 未熟な親が減らない限り、結局、不幸になるのは子供達だと思います。